

特異性を示す上でも、また、米軍関係者の利用などによる市内消費の活性化を促す上でも多くのメリットがあり、いくつか課題はあるが実施に向け前向きに検討したい」との回答がありました。また、地域性を生かした英語教育を推進する意味でも、現在基地の中に3校存在するアメリカの大学の分校を市が協力して基地の外に出し、横須賀市内にある大学に国内留学の生徒が全国から集まってくるというのは素晴らしいことだと思うが、そういう気持ちはあるかの問いには、「それについては可能かどうかの情報収集からしたい。基地の大学でなくても外国語で授業を行うような大学が市内にあれば素晴らしいことだと思う」との答えが市長からありました。

★市長のリーダーシップを問う

また、③の a. の質問について市長は、『『悪しき官僚主義』というの、『次世代の負担を考えない独りよがりの箱モノ中心主義』と定義しており、そのような形で施策を進めないという考えは変わっていない。また独りよがりにならないということについては、施策を進める上で市民の声、議会の声、職員の声に耳を傾けることが重要であり、その考え方を常に持ち続けながら職務にあたりたい』と発言。「では、すべて自身のマニフェストに基づいて人事も進めてきた市長が、行政手腕を買い信頼して登用した前水道局長が、市長が言うところの独りよがりであるようなこと（株式会社ウォーターサービス設立について外部から違法性の指摘を受けながら独自の判断で報告をしなかった）をし、ああいう結果（責任をとり辞職）になったことは、市長のマニフェストすべてを台無しにすることだと思うがどうか」と再質問したところ、市長は同件について独りよがりになってしまったことは認め、その上で「マニフェストのすべてが否定されたものではない」答弁。「私は（この件は）リーダーシップを発揮する立場にいる人間の信頼をも台無しにしたと思う」と続け、さらに「本当にこのまちのことを考えるならば、反省すべきところはしっかりと反省し、それを市民に伝えるべき」と指摘し、市長は「市民に伝えていきたい」と回答しました。

※その他、全質問における質疑応答の様子は市のホームページの中の「横須賀市議会」のページから、中継録画が観られますのでぜひご覧ください。

今定例会の私の質問に対する市長の答弁では、例えば①の「まちづくり」の中での目指すべき「国際海の手文化都市」のイメージについては基本構想に盛り込まれている内容を繰り返すのみで具体的なビジョンは全く伝わってきませんでした。また、④の「市民サービスについて」は、市が委託して業者が行う草刈りが、地元の公園では夏祭りの数日後に実施されたことについて、「どうせやるなら祭りの前にやればより住民が気持ちよく過ごせる。そういう気遣いこそが本当の市民サービスにつながるのではないか」という指摘をしたものです。市の財政が逼迫している今、適材適所にタイムリーな予算の使い方をすることが大切です。一方で、予算がなければならぬにできる市民サービスも大変重要であり、冒頭に記述したことなどがまさにそれにつながることはないでしょうか。さらに、⑥の「震災瓦れきの受け入れ」では、「地元の皆さんに寄り添う」としながら県の地元説明会に1度も足を運ばない上に、公に自分の考えを表明することすら消極的な姿勢しか得られませんでした。

リーダーが目指すべきビジョンを示さなければ職員はついていきません。職員一人ひとりに「市民のために」という最も基本的なことを認識させることもリーダーの務めです。そして自分の考えを公の場で示し市民と意見交換をすることも。若い市長なのでですからまだまだ挽回は可能でしょう。今後に期待します。

大野忠之へのご期待・ご要望・ご意見などをお寄せ下さい。 FAX : 046-838-6573

.....  
.....  
ご氏名

ご連絡先